



2019年度 勉強に役立つ日本語クラス  
報告書



神戸YWCA学院

日本語コース

# 1. 趣旨

近年、日本の公立学校で学ぶ外国にルーツを持つ子どもたち（日本国籍も含む）が増えている。義務教育の現場で日本語が分からない生徒がクラスにいる場合、ただでさえ忙しい教師がさらにその子どもに十分に対応することは、日本語指導の面でもクラス運営でも難しい現状がある。

その対応として、県や市からの派遣によるサポーター・システムがあり、教員と児童生徒とのコミュニケーションを支援する「子ども多文化共生サポーター（兵庫県）」や「外国人児童生徒受入校支援ボランティア（神戸市）」による支援が行われている。しかし、支援日数が限られていること、また、支援に携わるサポーターやボランティアは通訳者であって、日本語指導者ではないことが課題となっている。地域によってはボランティア教室との提携による支援体制も整いつつあるが、学習時間は限られている。

子どもたちは、学校等で友だちができれば日本語で簡単な意思疎通ができるようになる。すると、教師、両親などは日本語を習得したと考えがちであるが、これは誤解である。

日本語は“話し言葉”と“書き言葉（いわゆる文章に表れる日本語）”が大きく異なる。友だちとのコミュニケーションができるからといって、“書き言葉”で書かれた教科書の日本語が理解できるわけではない。彼らに必要なのは、日本語を第二言語として構造から学ぶことである。“書き言葉”の文法や語彙を会得してこそ、教科書が理解でき、知識の習得ができるようになる。

神戸YWCAは1950年代から約60年にわたり専門学校として日本語教育を行ってきた実績と、効果的な日本語指導のノウハウを持っている。現在は公益財団法人としてより地域に密着し、多文化共生を実現するための活動を進める中で、地域に暮らす子どもたちの日本語支援にも力を注いでいる。2008年から始まった「勉強に役立つ日本語クラス」（旧：学校に入るための日本語クラス）は、夏休み3週間集中的に日本語の構造を学び、学校の授業につながる日本語を身に付ける機会となっている。資料代のみで授業が受けられ、数学・英語等の科目を学習するために必要な日本語も学ぶ。

また、心理面での困惑を抱えた子どもたちも多い。

多くが両親の都合等で来日しており、彼ら自身が日本に来た理由を納得できていない場合もある。神戸YWCAで3週間毎日同じような境遇の友だちと出会い、共に勉強することで、ここは彼らの「居場所」になる。日本語の理解不足により学校では表情の堅かった子どもが、間違った答えであっても平気で言える雰囲気がある。ほかの皆も同じだから、挑戦しようという気持ちになるのであろう。積極的に参加する彼らからは、「学習することが楽しい」と思っている様子が伝わってくる。

子どもたちのほとんどは、日本に定住し、将来社会に出ていく。その時に、持てる能力を活かし、日本人と共にこの社会を支える人になってほしい。

このような願いから「勉強に役立つ日本語」を実施している。

2019年度は小学生の申込みが多く、外国語習得の能力が中学生・高校生とは大きく異なるため、従来の日本語能力によるクラス分けに加え、小学生クラスを設置し、1クラス2～4人の少人数クラスを4クラス設置して、より細やかに子どもたちの日本語のサポートを行なった。

## 2. 内容

### (1) 対象

応募条件は「学校の勉強のために、基礎的な日本語の勉強が必要な 13 歳から 18 歳くらいの外国にルーツのある子ども（日本国籍を持つ子どもも含む）」だったが、今年度は小学校高学年の問い合わせも多く、小学生クラスも設定して受け入れを行なった。

### (2) 日時

2019年7月29日（月）～8月16日（金） 全14日（土日・祝日は休み）

日本語 【1Aクラス・2Aクラス】 : 9:30～11:05

科目 （数学・英語・地理・科学・日本文化） : 11:15～12:15

日本語 【1Bクラス・2Bクラス】 : 12:25～14:00

### (3) 学習内容

クラス1A（3人・小学生） クラス1B（3人・中学生） クラス2A（2人・小学生）

来日したばかりの子ども、あるいは来日間もない子どもが中心のクラス。

短期集中型の日本語初期指導と、ひらがな・カタカナの習得を目指すことを目的とした。

**効果** 日本語による挨拶、日本語の基本的な構造が理解できた。  
また、ひらがな、カタカナの読み書きもできるようになった。

#### クラス2B（4人・中学生）

日本語初期指導、および読解力を高めるための基礎作りを行うことを目的とした。

聞き取りはできるが、話すことが苦手な子どもが多く、まず話すことの練習を行い、その後読解へとつなげることを目的とした。

**効果** これまで聞いてきた日本語の文法をもう一度整理することができた。  
また、発話することへの抵抗感も徐々に少なくなった。読解力については、主語や述語の整理、接続詞など読解力を伸ばすための基本的な項目を学習した。

#### 科目 科目指導（英語4時間、数学5時間、地理1時間、科学1時間）

科目の用語、学校で使われる日本語などを学び、科目学習につなぐことを目的としている。これまでの数学、英語、地理、日本事情に加え、今年度は新たに科学の時間を設け、神戸YWCAの理科実験グループ「わいわい科学クラブ」の出前授業で、ドライアイスの実験を行なった。自分のわかる日本語で実験をすることができた。

地理の時間では、自分の暮らしている神戸、兵庫などの位置学んだ。



**効果** 英語、数学ではレベルを2つに分け、設問の指示文の理解や、英語や数学そのものへの理解を高めた。地理では今自分が日本のどこにいるかを知ることができた。

#### (4) テキスト

このクラスでは当初、市販のテキストを使っていたが、クラスの趣旨に合うものがなく、2013年度から自主教材を作成し、毎年改定作業を行ってきた。

子どもが対象であること、短期間で集中的に日本語能力を伸ばす必要があることを考えたとき、市販のテキストを使用すると、一つひとつの文法項目を習得するのに時間がかかり、あっという間に3週間が過ぎてしまう。神戸YWCAのオリジナル教材は、扱う文法項目をコンパクトにまとめており、短期間で効果的に日本語を身につけることができる。改訂作業を重ね、昨年度よりクラス1のテキスト、今年度からクラス2のテキストを1冊の本の形にし、コース初日に配布することができた。

また、普段の学校生活では意識されない「日本語の構造」に焦点を当てた学習ができるよう工夫されている。読解教材も、日本語教育の観点から日本語を外国語としてとらえて作成されており、読解基礎力がつく内容になっている。この3週間子どもたちがYWCAで学んだ日本語は、学校に戻った後も、きっと彼らに自信を与えてくれるものとなるだろう。

#### (5) 授業見学会&修了式

8月16日(金)に授業見学会を実施した。後援者、ご寄付をいただいた方、子どもの所属する学校やボランティア教室の指導者等13人の方々に、「勉強に役立つ日本語クラス」の趣旨説明の後、日本語授業を見学していただき、続いて修了式に出席いただいた。さらに、修了式には子どもの家族も一緒に参加した。

修了式では、授業の様子を写した写真のスライドショーを見た後に、ひとりひとり日本語教師がコメントを書いた「ごくろうさんカード」を受け取った。みんなで集合写真を撮り、ミニパーティを開催した。

授業見学会のアンケートでは、「すごく楽しそうに日本語を話している姿が印象的でした。学校の友人たちと楽しそうに過ごす姿を見ていたけれど、同じような境遇の子たちとの関わりはとても大きなものだったと思います。助詞が抜けないように話すことが大事だということは、なるほどなあと思ったので、学校でも意識していこうと思いました(所属学校の教師)」「少人数制は良いと思いました(寄付者)」「4クラスそれぞれに子どもたちの習得状況に合わせた授業が展開されていることを実際に見ることができ、今後のサポートを考える上で大変参考になりました(日本語支援関係者)」「ボランティアベースでやっているのと支援者の能力によって支援に差が生まれる。子どもたちにとってより良い支援をするためにはシステムをきちんとしないといけないと考えていたところなので参考になりました(ボランティア教室関係者)」などの感想をいただいた。





## (6) プログラム修了後の支援 “はっぴー・すくーる”

「勉強に役立つ日本語クラス」が終了した後も継続的なプログラムを実施することで子どもたちがのびのびと自分らしくいることができる環境づくりを行っている。

月 1 回（原則第 2 土曜日）、クラスを修了した子どもたちが再び神戸YWCAに集う居場所づくりを目指す。通っている学校の様子や進学について、おしゃべりをしたり、みんなでゲームをしたりして楽しい時間を過ごす。また、毎週土曜日に開催されている学習指導は、苦手な教科を日本語指導のできる教科担当教師と共に学ぶ。

## (7) 地域とのつながり

神戸YWCA 近隣地域のイベントに参加し、地域の方々と交流しつつ、日本の夏祭りを経験した。

### ○二宮市場 夏祭り 7月20日（土）

今年度は神戸YWCAの子育て支援グループ「ちゃいやあらんど」がポップコーン売り場を担当し、はっぴー・すくーるに通う、昨年度までの「勉強に役立つ日本語クラス」の修了生が参加した。

## (8) 課題

「勉強に役立つ日本語クラス」を実施している休みの 3 週間以外の時期に来日する子どもへのサポート体制の確立が必要である。現在、既存の神戸YWCA学院日本語コースのレギュラーコースやプライベートレッスンで対応できる子どもは少数であり、また来日時期がさまざまであるため、新しいクラスを設置することも困難である。

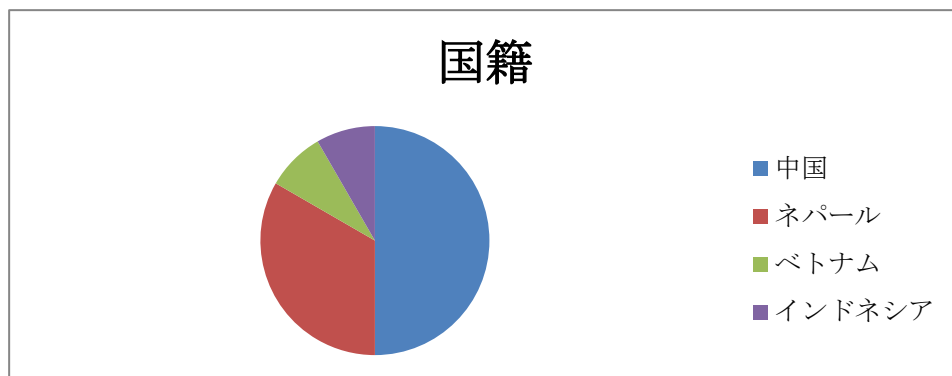
今後も「今すぐに日本語学習支援が必要な子どもがいる」という問い合わせがあったときに、いつでも日本語学習の初期指導ができる体制づくりが必要となる。



### 3. 参加者の国籍等について

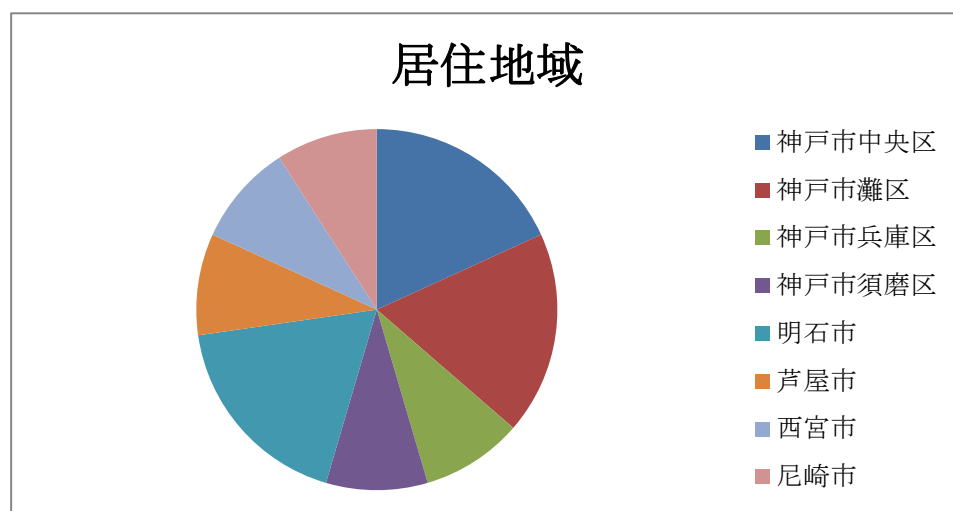
#### (1) 国籍

中国 6人  
ネパール 4人  
ベトナム 1人  
インドネシア 1人



#### (2) 居住地

神戸市中央区 2人  
神戸市東灘区 2人  
神戸市灘区 1人  
神戸市兵庫区 1人  
神戸市須磨区 1人  
明石市 2人  
芦屋市 1人  
西宮市 1人  
尼崎市 1人



全 12 人

#### (3) 学習者の集め方

- 子どもたちの所属する学校からの申し込み
- 地域のボランティア教室からの紹介
- 兵庫県国際交流協会、神戸市教育委員会などからの紹介
- 保護者からの申し込み
- 「勉強に役立つ日本語クラス」修了生からの紹介



## 4. 実績

### (1) 出席状況

出席率 92% (主な欠席理由は、病気のため。)

### (2) プレイメントテストについて

支援の必要な子どもたちをサポートできる効果的なクラス編成のために、プレイメントテストを実施している。

内容は、①ひらがな・カタカナ、②漢字、③文法、④読解 ⑤インタビューの5種類である。

今年度は14人が受験し、そのうち12人で4クラスを作った。

また、来日して間がなく、日本語がどんな言語かわからない子どもの応募が多かったため、日本語の聞き取りができ、話す力のある2人は断わらざるを得ず、「夏のはっぴー・さぽーと」への参加を呼びかけたが参加はなかった。

### (3) 学習者の声

これまで話していた日本語に  
ルールがあることに気が付いた！

YWCAでの勉強は、  
先生の話す日本語の内容が  
よくわかるので楽しかった！

YWCAで勉強して  
友だちができて  
とてもよかった！



YWCAで勉強した  
日本語を  
2学期からも  
使っていきたい。

### (4) 先輩の進学先

神戸YWCA学院日本語コースのレギュラーコース等を経て...

県立国際高校	県立東灘高校	徳島大学
県立神戸甲北高校	県立長田商業高校	甲南大学
県立西宮香風高校	県立芦屋国際中等学校	立命館大学
県立尼崎工業高校	県立芦屋高校	神戸大学工学部
県立舞子高校	兵庫県立大	鳥取大学 ほか

神戸市教育委員会・兵庫県教育委員会が主催する進学ガイダンスでは、毎年、「勉強に役立つ日本語クラス」の修了生が、後輩たちのために高校入試に関するスピーチやアドバイスを行っている。

## 5. 後援・協力団体等

### (1) 後援

神戸市教育委員会 兵庫県教育委員会

### (2) 寄付

#### ◇寄付者名（個人）

井上みち子 株式会社上野商店上野隆弘 尾崎淳子 川辺比呂子 木村秀子 澤村典子  
関正敏 高橋智子 高森正雄 武田比早子 多田昌史 玉岡昇治 茶本卓子 西村幸枝  
飛田みえ子 政井美香 三浦啓子 三原翠 村上由記 森下万智子 山崎恵 山本容子  
米田和博 渡辺順子 匿名（3人）

#### ◇寄付者名（団体）

神戸 YWCA 学院同窓会

#### ◇助成団体

公益財団法人兵庫県国際交流協会、NPO 法人モバイル・コミュニケーション・ファンド

（2019年8月27日現在）

### (3) 主な経費について

#### ○講師給

日本語指導のスキルを持つプロフェッショナルな日本語教師により、日本語を第二言語として効果的に指導する体制での実施が必要である。

#### ○テキスト作成費

前述のように、このクラスで使用するテキストは、神戸 YWCA が独自に開発したオリジナル教材である。長年の日本語教育における経験に基づいた独自の視点で編み出されたテキストが、子どもたちの短期間での集中した日本語学習に大いに役立っている。

#### お問い合わせ

### 神戸 YWCA 学院 日本語コース

〒651-0093 神戸市中央区二宮町 1-12-10  
tel. 078-231-6303 fax. 078-231-6692  
e-mail: saito@kobe.ywca.or.jp  
www.kobe.ywca.or.jp

## YWCA

（ワイ・ダブリュー・シー・エー  
Young Women's Christian Association）は…

キリスト教を基盤に、世界中の女性が言語や文化の壁を越えて力を合わせ、女性の社会参画を進め、人権や健康や環境が守られる平和な世界を実現する国際 NGO です。



